

世界の児童文学賞受賞作品

世界にはいろいろな児童文学賞があります。
2016年から2020年までの受賞作（次点（オナー）作品も含む）のうち、
当館に所蔵しているティーンズ向けの図書を展示します。

（ ）内は請求記号です
★印にはシリーズがあります

2020

国際アンデルセン賞受賞ジャクリーン・ウッドソン代表作

『あなたはそっとやってくる』

ジャクリーン・ウッドソン／著 さくまゆみこ／訳 あすなろ書房 （F2 ヲ）

ニューヨークにある私立高校への転校初日、廊下でぶつかったエリーとジェレマイアは共に15歳。初めて会ったのに、初めての感じがせず、惹かれあいます。でも、エリーは白人でジェレマイアは黒人。家族や友達に伝えてみても怪訝な顔をされるばかりでした。

『わたしは、わたし』

ジャクリーン・ウッドソン／作 さくまゆみこ／訳 鈴木出版 （Y92 ヲ）

「人生をリセットしたい」と考えたことはありますか。アメリカに住む12歳の少女の家族は、父が法廷で証言することを決めたことで、安全だった毎日が保てなくなります。一家は「証人保護プログラム」によって、別の土地に移り、別の名前を得ます。しかし、友だちや親族、過去や思い描いていた未来などを失い、自分が分からなくなってしまいます。

『マディソン通りの少女たち』★

ジャクリーン・ウッドソン／作 さくまゆみこ／訳 ポプラ社 （92 ヲ）

『ミラクルズボーイズ』

ジャクリーン・ウッドソン／作 さくまゆみこ／訳 理論社 （Y92 ヲ）

『レーナ』 ジャクリーン・ウッドソン／作 さくまゆみこ／訳 理論社 （92 ヲ）

2018

国際アンデルセン賞受賞角野栄子代表作

『トンネルの森1945』角野栄子／著 KADOKAWA （Y F1 か）

10歳のイコはおばあちゃんと暮らしていました。1945年、戦火が激しくなってきたため、父が再婚した義理の母と弟の3人で千葉のかやぶき屋根で井戸のある家へ疎開します。家から学校へは、暗い森や沼のそばを通らなくてははいけませんでした。

『境い目なしの世界』 角野栄子／著 理論社 （Y91 か）

『魔女の宅急便』★ 角野栄子／作 福音館書店 （91 か）

2016

国際アンデルセン賞受賞曹文軒(ツァオ、ウェンシュエ)代表作

『樹上の葉 樹上の花』

曹文軒／作 水野衛子／訳 樹立社 (Y 92 ヲ)

文化大革命の頃、国策により梅紋ら^{メイ・ウェン}都会の若者は農村に派遣されました。村の若者細米は梅紋に一目で惹かれます。そして、梅紋はいたずらに目の前の物をナイフで削ってばかりだった細米の才能に気づきました。2人は困難にあいながらも、家族や仲間に見守られ成長していきます。

『青銅とひまわり』 曹文軒／著 中由美子／訳 樹立社 (Y 92 ヲ)

『サンサン』 曹文軒／著 中由美子／訳 てらいんく (92 ヲ)

2014

国際アンデルセン賞受賞上橋菜穂子代表作

『獣の奏者』★ 上橋菜穂子／作 講談社 (91 ウ)

エリンは村で獣ノ医術師の母と暮らしていました。ある出来事から母が処刑されてしまったため、エリンは逃げ出します。行き倒れていたところを蜂飼いの男ジョウンに保護され共に暮らしますが、野生の王獣との出会いから母と同じ獣ノ医術師を目指すこととなります。

『精霊の守り人』★ 上橋菜穂子／作 偕成社 (91 ウ)

『鹿の王』上下★ 上橋菜穂子／著 KADOKAWA (Y91 ウ)

2020

ドイツ児童文学賞特別賞受賞コルネーリア・フンケ代表作

『どろぼうの神さま』

コルネーリア・フンケ／著 細井直子／訳 WAVE出版 (92 ヲ)

12歳と5歳の兄弟は、弟だけ引き取りたいという伯母夫妻に反発し、亡くなった母が語ってくれたおとぎ話の舞台ヴェネツィアへ家出をします。そこで出会った少女に誘われ、どろぼうの神さまスキピオの隠れ家で他の子どもらと自由に暮らしていました。ある日、伯母夫妻が雇った探偵が現れたことで、子どもらの暮らしは変わり始めます。冒険ファンタジー。

『竜の騎士』 コルネーリア・フンケ／著 細井直子／訳 WAVE出版 (92 ヲ)

・全米図書賞児童書部門受賞2018

・カーネギー賞2019

・マイケル・L・プリンツ賞受賞2019

・ボストングローブ・ホーンブック賞フィクションと詩部門受賞2018

・ゴールデン・カイト賞フィクション Young Adult 部門オナー2019

『詩人になりたいわたしX』

エリザベス・アセヴェド／作 田中亜希子／訳 小学館 (Y 92 ア)

厳格な母や父や宗教に疑問を持ち、人々の視線に耐え、ときに戦う、無口なシオマラは15歳。双子の兄から贈られたノートに言葉を綴るときだけ「自分」になれる。高校で自作の詩をパフォーマンスで表現するスポークンワードポエトリー部に入り、何かが変わり始めます。

・ドイツ児童文学賞青少年審査員賞受賞2017

・ウィリアム・C・モリス賞受賞2016

『サイモンvs人類平等化計画』

ベッキー・アルバータリ／作 三辺律子／訳 岩波書店 (Y 92 ア)

16歳のサイモンは、家族や友達に恵まれています。なので、ゲイだとカミングアウトしても大丈夫だとは感じていますが、今はまだ同じ高校に通っているだろうメル友のブルーにだけ伝えています。ある日、ブルーとのメールを同級生に読まれてしまい、脅されることになってしまいました。2018年映画化。

- ・スコット・オデール賞受賞2018
- ・ドイツ児童文学賞ヤングアダルト部門ノミネート2019

『この海を越えれば、わたしは』

ローレン・ウォーク／作 中井はるの／訳 中井川玲子／訳 さ・え・ら書房
(Y92ウ)

- ・やまねこ賞読み物部門1位2016
- ・ニューベリー賞オナー2014

『ペーパーボーイ』★

ヴィンス・ヴォーター／作 原田勝／訳 岩波書店 (Y92ウ)

「ぼく」は、どもらずにはしゃべれません。話そうとすると言葉はつかかり、それでも出そうとすると顔は真っ赤になって息苦しくなってしまいます。ある日、大切な友だちにけがをさせてしまい、お詫びに夏休みの新聞配達を代わることに決めました。ただ、知らない人と話さなくてはいけない毎週末の新聞代集めが心配です。1959年アメリカ南部が舞台。

- ・MWA賞(エドガー賞) 児童図書部門受賞2017

『ぼくはO・C・ダニエル』

ウェスリー・キング／作 大西味／訳 鈴木出版 (Y92キ)

13歳のダニエルは1日に何回も頭の中に声が響き、不安に襲われます。不安は「儀式」を行えば収まることから、家族にも隠して過ごしていました。そんな少しヘンなダニエルですがみんなと同じく普通でありたいため、万年控え選手でも家族や親友が好きなアメフト部に所属しています。ある日、変わり者の同級生サラに「ダニエルの心は、ほかの人たちとかなりちがっている」といわれ「一緒にパパを探してほしい」と頼まれてしまいます。

- ・スコット・オデール賞受賞2019

『希望の図書館』

リサ・クライン・ランサム／作 松浦直美／訳 ポプラ社 (92ク)

1946年、母を亡くした黒人の父子は、南部アラバマから北部シカゴへ引っ越しました。中学生のラグストンは都会に馴染めず、訛りをいじめられる辛い毎日でしたが、黒人も利用できる公共図書館を見つけます。

- ・カーネギー賞受賞2016
- ・CBI最優秀児童図書賞受賞2016
- ・ドイツ児童文学賞ヤングアダルト部門ノミネート2017
- ・ドイツ児童文学賞青少年審査員賞ノミネート2017
- ・チルドレンズ・ブック賞高学年向部門受賞2017

『わたしの全てのわたしたち』

サラ・クロッサン／著 最果タヒ／訳 金原瑞人／訳 ハーパーコリンズ・ジャパン
(YF2ク)

16歳のグレースは、ティッピーと一緒に9月から高校に通うことになりました。ただ、2人なのに学費は1人分で、学校も1人の生徒として受け入れるとのことでした。それは、2人が腰から下が繋がっている結合双生児だからとのことでした。学校に行くと、人にみられてしまい嫌でしたが、代わりに友情や恋、ティッピーの大切さを知ります。詩で綴られる物語。

- ・ニューベリー賞受賞2018
- ・ドイツ児童文学賞児童書部門受賞2019

『ハロー、ここにいるよ』

エリン・エントラダ・ケリー／作 武富博子／訳 評論社 (92ケ)

2016

ドイツ児童文学賞特別賞受賞クラウス・コルドン 代表作

『ベルリン1919』上下★

クラウス・コルドン／作 酒寄進一／訳 岩波書店 (Y 92 コ)

戦時下の1918年、ベルリンの貧しい地区に住む一家の長男13歳のヘレのもとに、戦争で片腕を失った父が帰ってきました。しかし、4年も続いている戦争の影響で、食料も燃料も乏しいです。とある港町で起きた水兵らのストライキからデモが広がり、ドイツ帝政を倒す11月革命へととなりますが…。

『モンスーンあるいは白いトラ』

クラウス・コルドン／作 大川温子／訳 理論社 (92 コ)

・ C B I 最優秀児童図書賞受賞2018

『目覚めの森の美女－森と水の14の物語－』

ディアドラ・サリヴァン／著 田中亜希子／訳 東京創元社 (Y F2 判)

シンデレラのように健気に尽くしていれば魔法使いが現れて王子様と結婚できるなんて考えていない、家族や社会に「女の子はこうあるべき」といわれなくても、自分らしく生きようともがいて自立しようとする「あなた」が主役。有名なおとぎ話の登場人物を主役に詩的でダークにアレンジした14の短編集。

・ 全米図書賞児童部門受賞2015

・ ゴールデンカイト賞フィクション部門受賞2016

・ ドイツ児童文学賞青少年審査員賞2019

・ ドイツ児童文学賞ヤングアダルト部門ノミネート2019

『僕には世界がふたつある』

ニール・シャスタマン／著 金原瑞人／訳 西田佳子／訳 集英社 (Y F2 判)

・ カーネギー賞受賞2017

・ ゴールデンカイト賞フィクション Young Adult 部門受賞2017

『凍てつく海のおこうに』

ルータ・セペティス／作 野沢佳織／訳 岩波書店 (Y 92 セ)

第二次世界大戦末期の冬、陸の孤島となったドイツ領東プロイセンにソ連軍の侵攻から避難するリトアニア人のヨアーリ、東プロイセン人のフローリアン、ポーランド人のエミリアがいました。また、ドイツ人水兵のアルフレッドは自国民を脱出させるためのヴィルヘルム・グストロフ号にいました。戦争に翻弄される4人の若者に、海運史上最大の惨事が襲いかかります。

・ ドイツ児童文学賞青少年審査員賞2018

・ ポストグローブ・ホーンブック賞フィクションと詩部門受賞2017

・ カーネギー賞アムネスティオナー2018

・ ドイツ児童文学賞ヤングアダルト部門ノミネート2018

・ マイケル・L・プリンツ賞オナー2018

・ MWA賞 (エドガー賞) YA小説部門オナー 2018

『ザ・ヘイト・ユー・ギヴー－あなたがくれた憎しみ－』

アンジー・トーマス／作 服部理佳／訳 岩崎書店 (Y 92 ト)

・ ポストグローブ・ホーンブック賞フィクション部門 受賞2012

・ 第5回JBBY賞翻訳作品の部門受賞2016

『ハーレムの闘う本屋－ルイス・ミショーの生涯－』

ヴォーダ・ミショー・ネルソン／著 R.グレゴリー・クリスティ／イラスト
原田勝／訳 あすなろ書房 (Y F2 判)

・MWA賞(エドガー賞) 児童図書部門受賞2019

『きみのいた森で』

ピート・ハウトマン/作 こだまともこ/訳 評論社 (Y 92 ハ)

今は森となっている土地にまつわる家族の歴史を教えてくれたおじいちゃんが嵐で亡くなりました。悲しむスチューイでしたが、近所に同い年のエリーが越してきて元気を取り戻します。ある日、森で一緒に会話していたエリーが突然透けだして、消えてしまいました。

コスタ賞児童書部門受賞と最優秀賞2015

ボストングローブ・ホーンブック賞フィクション部門オナー2016

ストレーガ・ラガッツェ・エ・ラガッツィ賞+II最終候補作2018

カーネギー賞ショートリスト2016

やまねこ賞読み物部門1位2018

『嘘の木』

フランシス・ハーディング/著 児玉敦子/訳 東京創元社 (Y F2 ハ)

・チェント賞中学生向部門受賞2017

・シュナイダー・ファミリーブック賞中学生向受賞2016

『木の中の魚』

リング・マラー・ハント/著 中井はるの/訳 講談社 (Y 92 ハ)

・ニューベリー賞受賞2017

『月の光を飲んだ少女』

ケリー・バーンヒル/著 佐藤見果夢/訳 評論社 (Y 92 ハ)

毎年怖ろしい森の魔女へ赤ん坊をいけにえとして捧げなくてはいけない村がありました。一方では、毎年森に捨てられている赤ん坊に心を痛め、拾っては里子に出している魔女がいました。ある年、赤ん坊を可愛がり過ぎた魔女は、ミルク代わりに星の光ではなく月の光を飲ませてしまいます。

・ニューベリー賞オナー2016

・シュナイダー・ファミリーブック賞中学生向受賞2016

・産経児童出版文化賞翻訳作品賞受賞第65回2018

・やまねこ賞読み物部門1位2017

『わたしがいどんだ戦い1939年』★

キンバリー・ブルベーカー・ブラッドリー/作 大作道子/訳 評論社 (Y 92 フ)

足が不自由なエイダは、母に虐げられ、部屋に閉じ込められていました。もうすぐ学校へ進学する弟のジェイミーが羨ましく、一人で歩く練習を始めます。1939年、ロンドンから疎開をすることになった弟と一緒にエイダは家を抜け出します。トラウマと戦いながらも疎開児童預かり先のスーザンらとの交流で少しずつ世界が開かれていきます。

・カーネギー賞受賞2018

・マイケル・L・プリンツ賞オナー2020

『世界のはての少年』

ジェラルディン・マコックラン/著 杉田七重/訳 東京創元社 (Y F2 マ)

1727年8月、スコットランドの西にあるヒルタ島から大人3人と少年9人が1枚岩の無人島へ海鳥の猟に出ました。断崖絶壁を登り降りし、数週間かけて海鳥の卵や肉、羽根、油を集めました。約束の日を過ぎても迎えの舟が来ません。やがて渡り鳥は旅立ち、冬となり過酷な日々が襲ってきました。実際に起こった出来事をもとにして描かれた冒険物語。

・ニューベリー賞受賞2019

『スアレス一家は、今日もにぎやか』

メグ・メディナ／著 橋本恵／訳 あすなろ書房 (Y92 行)

親族で支えあいながら暮らしている11歳のメルシ。昨年両親の希望で奨学金を得て名門私立校へ編入しましたが、奨学金を維持するには良い成績を収めなければいけません。しかし、家族の手伝いはしなくてはなりませんし、同級生のエドナは性格に難があります。そして大好きなおじいちゃんは最近物忘れが激しく、変な行動をするときがあり、とても心配です。

・ドイツ児童文学賞青少年審査員賞ノミネート2016

・フリードリヒ・ゲルシュテッカー賞受賞2016

『列車はこの闇をぬけて』

ディルク・ラインハルト／作 天沼春樹／訳 徳間書店 (Y92 51)

グアテマラに住む14歳のミゲルは、アメリカへ出稼ぎに行った母を探しに出ます。エル・サルバドルやホンジュラスから来た4人の仲間と共に川を渡り、メキシコを縦断する貨物列車に乗り込みますが…。それは、危険極まりない旅となります。

・MWA賞(エドガー賞)YA小説部門2018

・マイケル・L・プリンツ賞オナー2018

・ニューベリー賞オナー2018

・ドイツ児童文学賞ヤングアダルト部門ノミネート2020

『エレベーター』

ジェyson・レナルズ／著 青木千鶴／訳 早川書房 (YF2 11)

兄ショーンが銃殺された、その悲しみはとても深い。15歳のウィルは兄から教わった「掟」に従い、兄の筆筒から拳銃を取り出します。アパートメントの8階からエレベーターが下がるなか、各階から人が乗り込んできましたが、いつもとは何かが異なります。詩で綴られる物語。

・チェント賞受賞2018

・イタリア・アンデルセン賞 読み物 12歳以上対象部門受賞2019

『ゴースト』

ジェyson・レノルズ／作 ないとうふみこ／訳 小峰書店 (Y92 11)

3年前、父ちゃんが母ちゃんとおれに向かって発砲してきた。こわさから逃げるなか、より速く走れるようになります。しかし、未来を夢みることはなく、同級生にスラムに住み、体に合わない服を着ていることをからかわれては、もめごとを起こしてばかりです。ある日、足の速さが認められて陸上のチームに加入したことで、自分の中で少しずつ変化が起こります。

ゴールデンカイト賞ノンフィクション部門受賞2017

ロバート・F・サイバート知識の本賞オナー2017

『正義の声は消えないー反ナチス・白バラ抵抗運動の学生たちー』

ラッセル・フリードマン／著 渋谷弘子／訳 汐文社 (20)

・全米図書賞(児童文学部門)受賞2016

・マイケル・L・プリンツ賞2017

・ロバート・F・サイバート知識の本賞受賞2017

『MARCH』★

ジョン・ルイス／作 アンドリュー・アイディン／作 ネイト・パウエル／画

押野素子／訳 岩波書店 (316.853)

・ボローニャ・ラガッツィ賞障害の本部門最優秀賞2016

『マルコとパーダウン症のあるむすことぼくのスケッチブックー』

グスティ／作・絵 宇野和美／訳 偕成社 (36.9)

リストに掲載した世界の児童文学賞について紹介します（順不同）

主催国	賞名	概要
国際	国際アンデルセン賞 (Hans Christian Andersen Medals)	1956年創設、世界で最初の子どもの本の国際的な賞。「小さなノーベル文学賞」とも言われ、国際児童文学賞ではもっとも栄誉ある賞のひとつです。国際児童図書評議会（IBBY）が選考し、作家賞、画家賞があります。
アメリカ	ニューベリー賞 (The John Newbery Medal)	1921年に設立された世界初の児童文学賞。前年、最も優れた米国の児童図書を書いた作家に贈られます。
	マイケル・L・プリンツ賞 (Michael L. Printz Award)	2000年創設。米国図書館協会（ALA）のヤングアダルト部門（YALSA）が主催。前年にアメリカで出版されたヤングアダルト作品から選考されます。
	スコット・オデール賞 (Scott O'Dell Award for Historical Fiction)	1982年創設。前年出版されたアメリカ人による新世界（南北アメリカ）を舞台にした子ども向け、ヤングアダルト向けの歴史小説から選考されます。
	ゴールデン・カイト賞 (The Golden Kite Award)	1973年創設。「児童書作家・画家協会」によって選ばれる。フィクション、ノンフィクション、絵本・絵、絵本・文の部門があり、受賞作とオーナー作が発表されます。
	MWA賞（エドガー賞） (The Edgar Allan Poe Award)	アメリカミステリー作家協会が米国内で前年に発表されたミステリーの分野の作品から候補作と受賞作を選考します。児童図書賞は1961年に創設され、1989年にはYA小説賞が独立部門として分離されました。
	ボストングローブ・ホーンブック賞 (Boston Globe-Horn Book Award)	1967年ボストングローブ（新聞社）とホーンブック（児童文学評論誌出版社）が創設。同賞は作者の国籍を問わず、米国で1年間（6月から翌年5月まで）に出版された本を対象としています。フィクション+詩、ノンフィクション、絵本の3部門があり、受賞作と次点（Honors）が発表されます。
	全米図書賞（The National Book Award for Young People's Literature）	1950年創設。前年12月からの1年間に米国で出版された図書に対して贈られています。1996年より児童書（Young People's Literature）部門が加わりました。
	ロバート・F・サイバート知識の本賞（Robert F. Sibert Informational Book Medal）	2001年創設。前年米国で出版された実在の人物や歴史的事実、自然現象などを題材とし、絵や写真を用いて子ども向けにまとめ上げたノンフィクション作品から選考されます。
	シュナイダー・ファミリーブック賞 (Schneider Family Book Awards)	2004年創設。障害を持つ子ども、若者、その家族や友達を描いた作品が対象。ティーン向け（13～18歳）、中学生向け（11～13歳）、子ども向け（0～10歳）の3部門があります。
	ウィリアム・C・モリス賞 (Youth Media Awards)	YALSA（全米図書館協会ヤングアダルト図書館サービス部会）が創設。前年出版のヤングアダルトのうち、すぐれたデビュー作品に贈られます。

アイルランド	C B I 最優秀児童図書賞 (ビスト児童図書賞) (The CBI Book of the Year Awards)	1991年アイルランド児童図書協会により創設。原語が英語またはアイルランド語の児童書であることが条件。最優秀児童図書賞、栄誉賞、優れたデビュー作を評価する賞(エイリース・ディロン賞)があります。
イギリス	カーネギー賞 (Carnegie Medal)	1937年創設。イギリスで1年間に出版された児童書を対象としています。アムネスティオナーとは、2016年人権団体 Amnesty International UK の協力で新たに設けられた賞です。
	コスタ賞(旧ウィットブレッド賞) 児童書部門 (Costa Children's Book Award)	1971年創設。英国又はアイルランドの作家の本に贈られる文学賞のなかの児童部門。2016年よりスポンサーがコスタコーヒーになり、賞名が変わりました。
	チルドレンズ・ブック賞 (子どもの本賞) (Children's Book Award)	1980年子どもの本グループ連盟(FCBG)により創設。子どもたちの投票によって選ばれる。幼年向け、低学年向け、高学年向けの3部門があります。
イタリア	ストレーガ・ラガッツェ・エ・ラガッツィ賞 (Premio Strega Ragazze e Ragazzi)	イタリアで最も権威ある文学賞ストレーガ賞の児童部門として2016年創設。前年にイタリアで出版された子ども向けの読み物(翻訳作品含む)が対象です。6歳~10歳の読者を対象とする部門と11歳~15歳の読者を対象とする部門の2部門があります。
	チェント賞 (Premio Cento)	1979年創設。前年にイタリアで出版された作品(翻訳作品含む)から小学生向け部門と中学生向け部門・各部門1位から3位まで選ばれます。
	ボローニャ・ラガッツィ賞 (Bologna Ragazzi Award)	フィクション、ノンフィクション、オペラプリマ(デビュー作品対象)の主要4部門とコミックやポリエトリーなどの部門があります。
	イタリア・アンデルセン賞 (Premio Andersen)	1982年創設。前年にイタリアで出版された本(翻訳作品含む)から選ばれます。
ドイツ	ドイツ児童文学賞 (Deutscher Jugendliteraturpreis)	1956年ドイツ政府の家族省により創設。本部門、児童書部門、ヤングアダルト部門、ノンフィクション部門と、青少年審査委員会が審査・決定を行う「青少年審査委員賞」、これまでの作品と功績に対して贈られる「特別賞」があります。
	フリードリヒ・ゲルシュテッカー賞 (Friedrich Gerstäcker Preis)	1947年ドイツのブラウンシュヴァイク市により創設。2年に一度ドイツ語で書かれた12歳以上向けの異文化への理解と寛容を促す本から受賞作品が選ばれます。
日本	J B B Y 賞(日本)	2008年日本国際児童図書評議会により創設。2年に1度選考され、児童文学・絵本・翻訳作品の3部門があります。
	産経児童出版文化賞	1954年に創設。前年に日本で出版された本から選ばれます。大賞のほか美術賞、翻訳作品賞などがあります。
	やまねこ賞	1998年やまねこ翻訳クラブにより創設。前年10月からその年の9月までに出版された邦訳児童書、および、過去に海外で出版された未訳児童書が対象。読み物部門、絵本部門、原書部門、オールタイム部門があります。